

学力向上プラン 2025

大分県立大分豊府中学校

I 目指す生徒像

1 スローガン

「 Challenge and Step Up with Passion 」

2 校訓

「 感動 理知 友愛 」

3 教育目標（6年後）

創造的な知性と豊かな人間性、逞しさを備え、高い志を持って国際社会でリーダーとして活躍できる人材の育成

4 中間目標（3年後）

豊かな感性をもち、創造的な知性の獲得に向けて、自ら考え自ら行動するたくましさを備えた人材の育成

5 育成したい生徒像

（1）学ぶことに興味・関心を持ち、自分の進路達成に結び付けながら、粘り強く学習に取り組むことのできる生徒

（2）誠実で正義感にあふれ、他者の立場に立って物事を考える、人権感覚に富んだ生徒

（3）学業と部活動・生徒会活動などに果敢に挑戦性、両立を体現できるたくましさ
を備えた生徒

（4）広い視野で物事を考え、他者の価値観を認めながら、協働して課題解決に当たれる生徒

6 令和7年度の重点目標と重点的取組

(1)生徒の主体性な学びを育てる教育活動と授業改善の推進

- ①生徒が授業内容に興味や関心を持ち、自ら積極的に学習に取り組み、振り返って次につなげていける授業の実践
- ②生徒が自ら計画・立案・運営に取り組み、活動を振り返って次につなげていける教育活動の提供

(2)生徒の課題探究力および進学力の向上

- ①総合的な学習の時間における課題探究型の学習実践
- ②自己の可能性を広げる進路選択に挑戦する力の育成

(3)生徒の社会性および国際感覚を養う体系的指導システムの構築

- ①他者との協働による社会性育成の活動促進
- ②国際感覚を養うための体系的な指導システムの構築

(4)教職員のワークライフバランスの推進

- ①休暇取得や定時退庁を促進する職場の環境づくり
- ②ICT 機器の活用による業務の効率化

7 目指す学力観

「新時代を生きるみなさんへ」

人工知能をはじめとする科学技術の発展に加え、気候の変動や人々の考えの多様化など、いろいろな要因が複雑にからみ合うことで、社会が激しく変わり続ける時代となりました。

このような時代の中では、変化に自分たちを合わせていくような「柔軟さ」だけでなく、「つくりたい未来」を描き、自分たちで変化を創り出していく、そういった「たくましさ」が必要です。

そこで、大分豊府では、言葉や数字などの情報を道具として使いこなす力や、問題を発見し、その解決について考える力、想いを伝える力など、自分で考え、自分で行動できる「たくましさ」に必要な力を6年間で育てることを目標にしています。

また、中学校の3年間では、「感性」をはぐくむことを目標にしています。「感性」とは、何かの情報に接したとき、深く心に感じ取る感覚・能力のことで、いわば、外の世界を見る「窓」のような役割をもっています。そして、「感性」は自分で考え行動する「たくましさ」を生み出す^{みなもと}源となる力です。

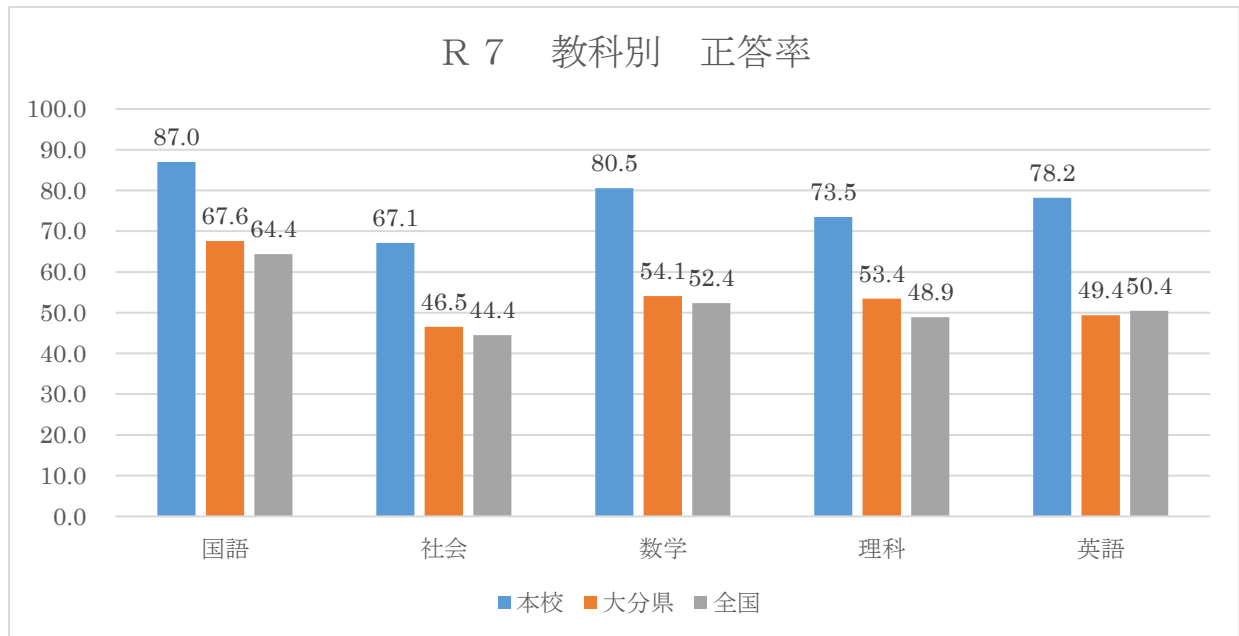
大分豊府では、たとえば、教育合宿や、大学の先生による講座、中学生と高校生との交流行事、国際交流プログラム、プレゼンテーションやスピーチなどの発表活動の場など、いろいろな取組を準備し、外の世界を見る「窓」をたくさんつくって生徒のみなさんの「感性」をはぐくんでいきます。また、その「感性」を活かして、中高6年間の授業「未来 Navigation」で「つくりたい未来」や「進むべき道」を見つけていきます。

こうして培った豊かな「感性」の上に成り立つ「たくましさ」は、きっと、新時代を生きるみなさんの将来の拠り所となるでしょう。

Ⅱ 学力状況

1 学力状況—大分県学力定着状況調査（令和7年4月 対象中2）より—

〈データ1〉各教科の正答率



〈データ2〉カテゴリ-別（知識分野・活用分野）

知識分野の正答率		国語	社会	数学	理科	英語
正答率	大分豊府	89.5	69.5	83.4	74.6	78.8
	大分県	72.4	49.5	59.3	55.8	51.4
	全国	69.3	47.2	57.2	51.0	51.4
全国との差		20.2	22.3	26.2	23.7	27.4

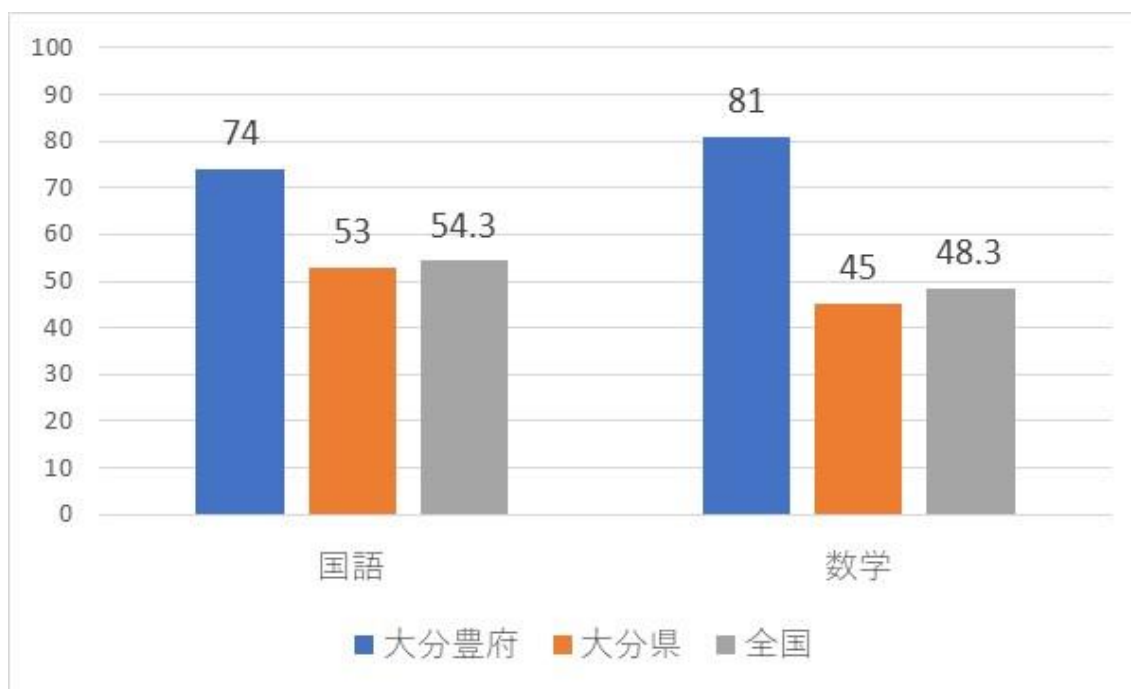
活用分野の正答率		国語	社会	数学	理科	英語
正答率	大分豊府	81.7	61.7	71.2	70.9	77.0
	大分県	57.1	39.9	36.9	47.9	45.6
	全国	53.8	38.4	36.4	44.2	48.6
全国との差		27.9	23.3	34.7	26.7	28.4

大分豊府中学校の強み①活用力

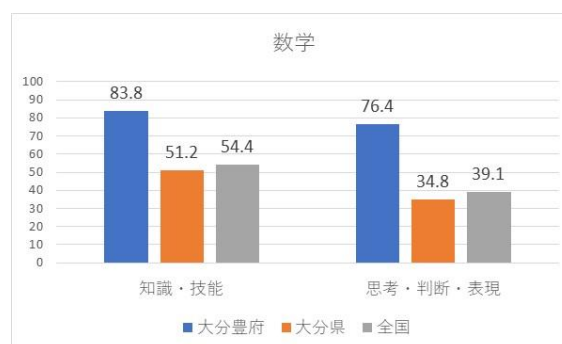
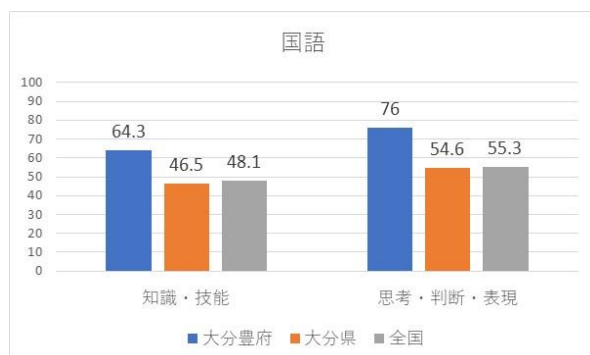
身につけた知識・技能を活用し、問題を解く力、思考力・判断力・表現力が備わっているということ。

2 学力状況—全国学力・学習状況調査（令和7年4月 中3データ）より—

〈データ3〉各教科の正答率



〈データ4〉「問題別調査結果」



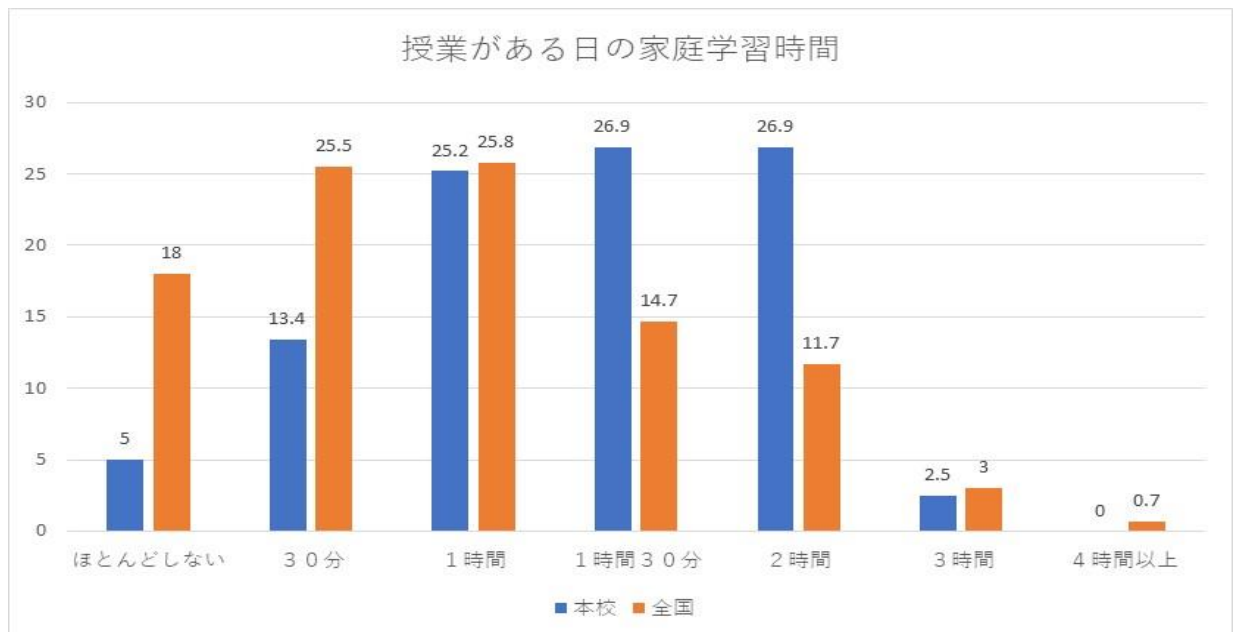
大分豊府中学校の強み「活用力」の再確認

中2対象の「大分県学力定着状況調査」と同様に、中3対象の「全国学力・学習状況調査」においても、「知識・技能」を活用する力「思考・判断・表現」が高いことがわかる。

Ⅲ 学習状況

1 家庭学習時間－学力推移調査（令和7年4月実施）より－

〈データ5〉本校中3生と、全国中高一貫校との比較



大分豊府中学校の強み②自学力

平日・休日ともに自主学習時間が全国と比較して多い。
主体的に学習に取り組む習慣「自学力」が身に付いている。

大分豊府中学校の強みは**活用力**と**自学力**

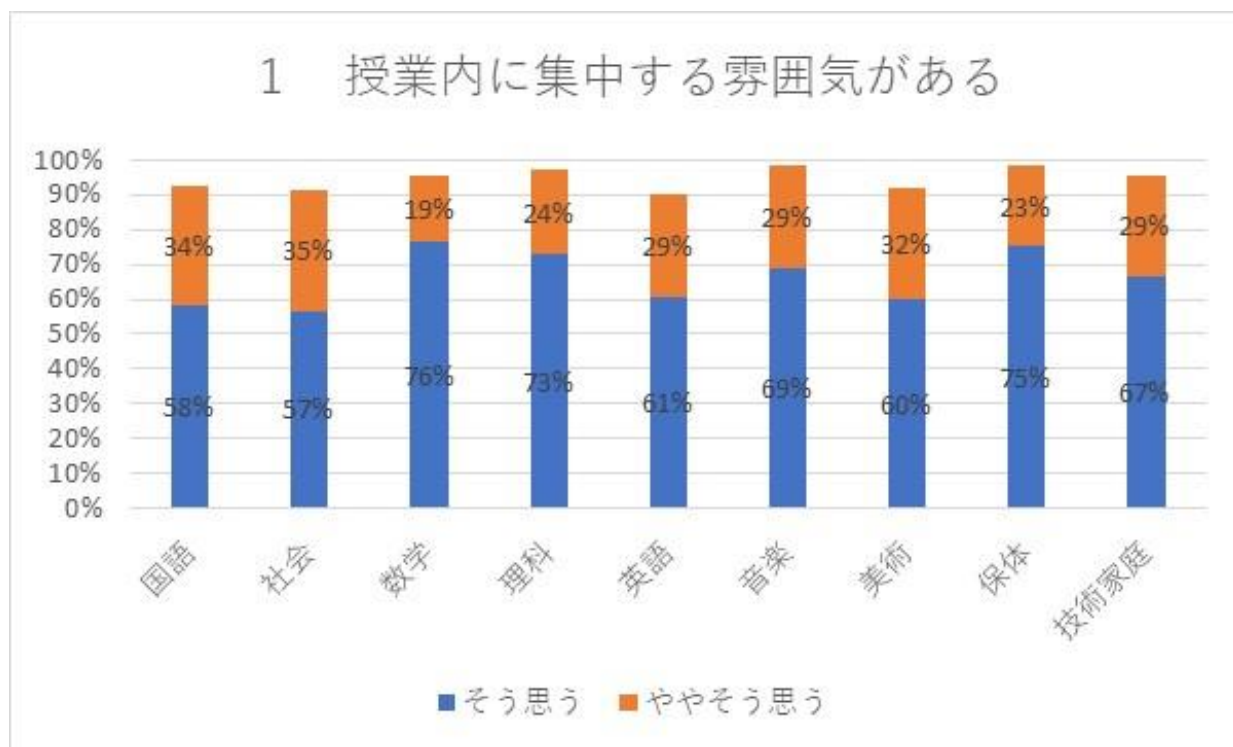
活用力を育成する取組（例）	
・話し合い活動を取り入れた授業 ・生徒が調査して発表する授業 ・生徒が体験して発表する授業 を実施しています	全学年
・総合的な学習の時間は探究学習をしています	全学年
・Iris ではレベルの高い発表を目指します	全学年
・夏の作文課題（人権作文など多岐にわたって）	全学年
・社会科の授業を増やしています	中1
・学校独自教科「コミュニケーション」の実施	中1・2
・学校独自教科「ファウンデーション」の実施	中3

自学力を育成する取組（例）	
・Memoria に学習時間を毎日記入	全学年
・学習時間調査を実施しています	全学年
・絶対下校時刻を厳守する指導をしています	全学年
・T-time（定着の時間）を実施しています	全学年
・夏休みは My Way Room を開放しています	中3
・考査は数日に分けて実施。学習時間を確保させています	全学年
・考査前は部活動停止です（3日～7日前）	全学年
・夏休みは各自で深める課題もあります （理科の自由研究など）	全学年
・放課後に My Way Room を開放しています	中3

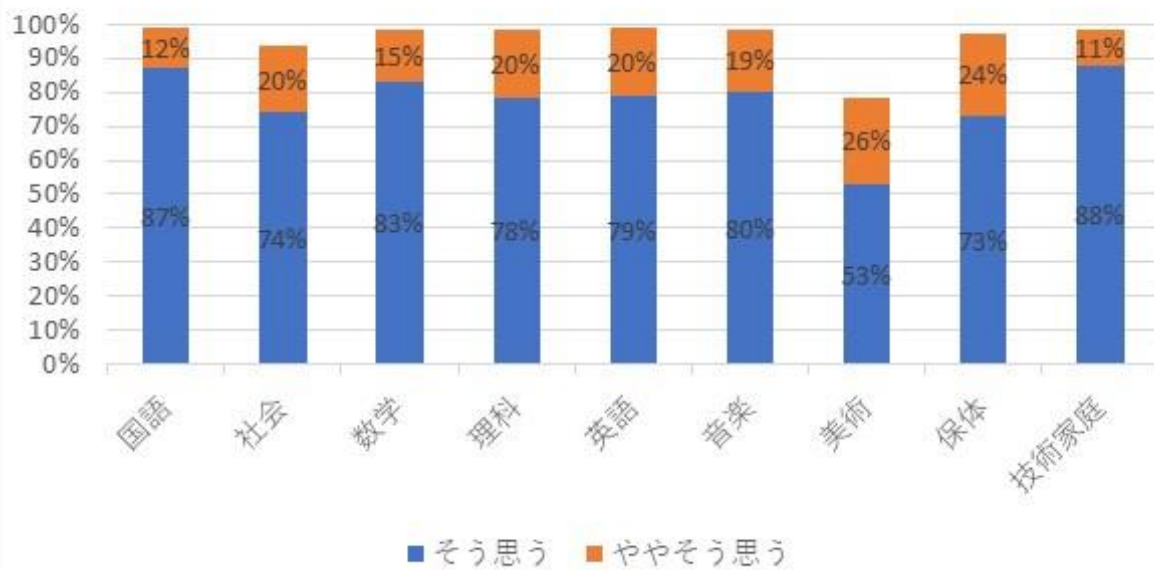
- ・ 順調に取組の成果が出ています。
- ・ 「活用力」と「自学力」を
育成する取組を今後も継続します。

2 授業の実態把握—生徒の授業に対する印象—

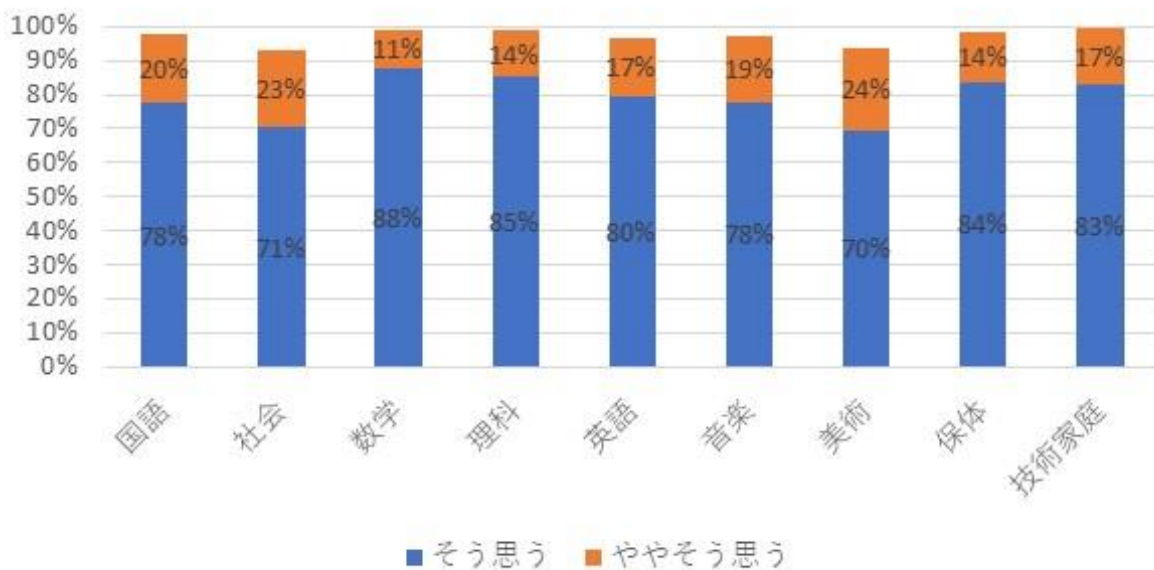
〈データ6〉 第1回授業についてのアンケートより（令和7年7月実施 対象全生徒）



3 ICTを利用したわかりやすい授業



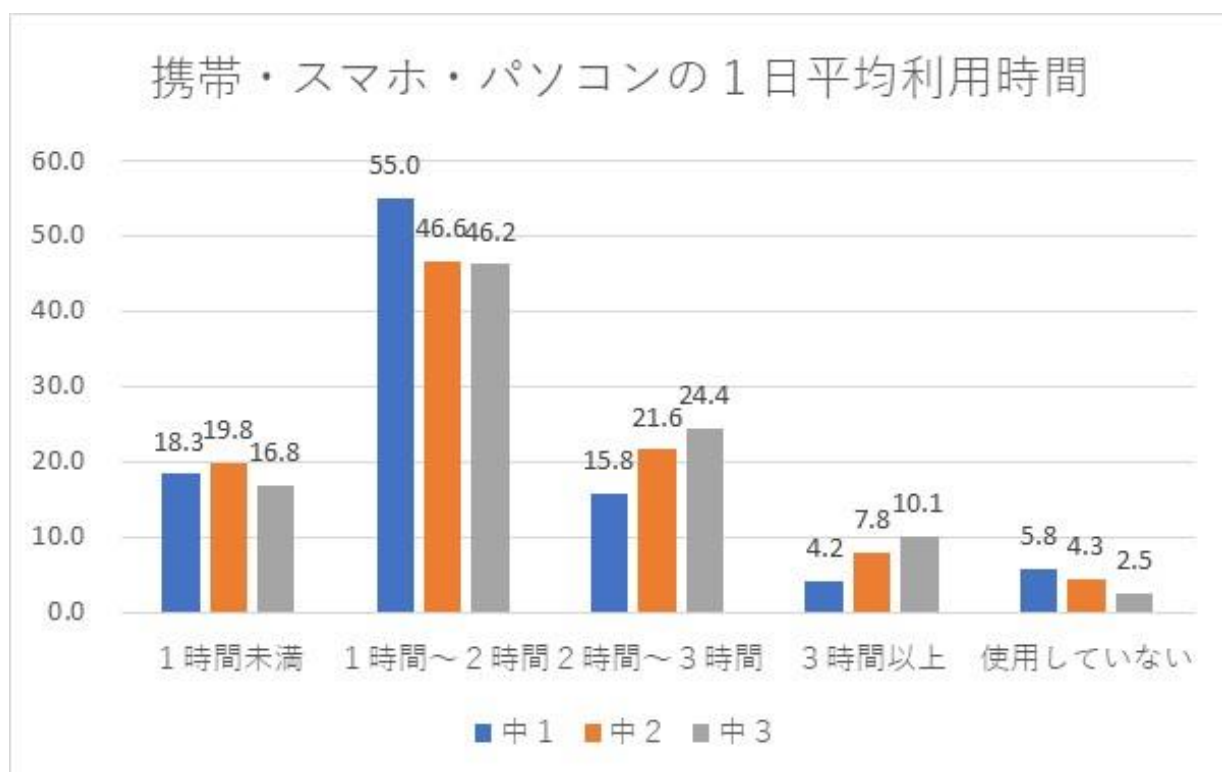
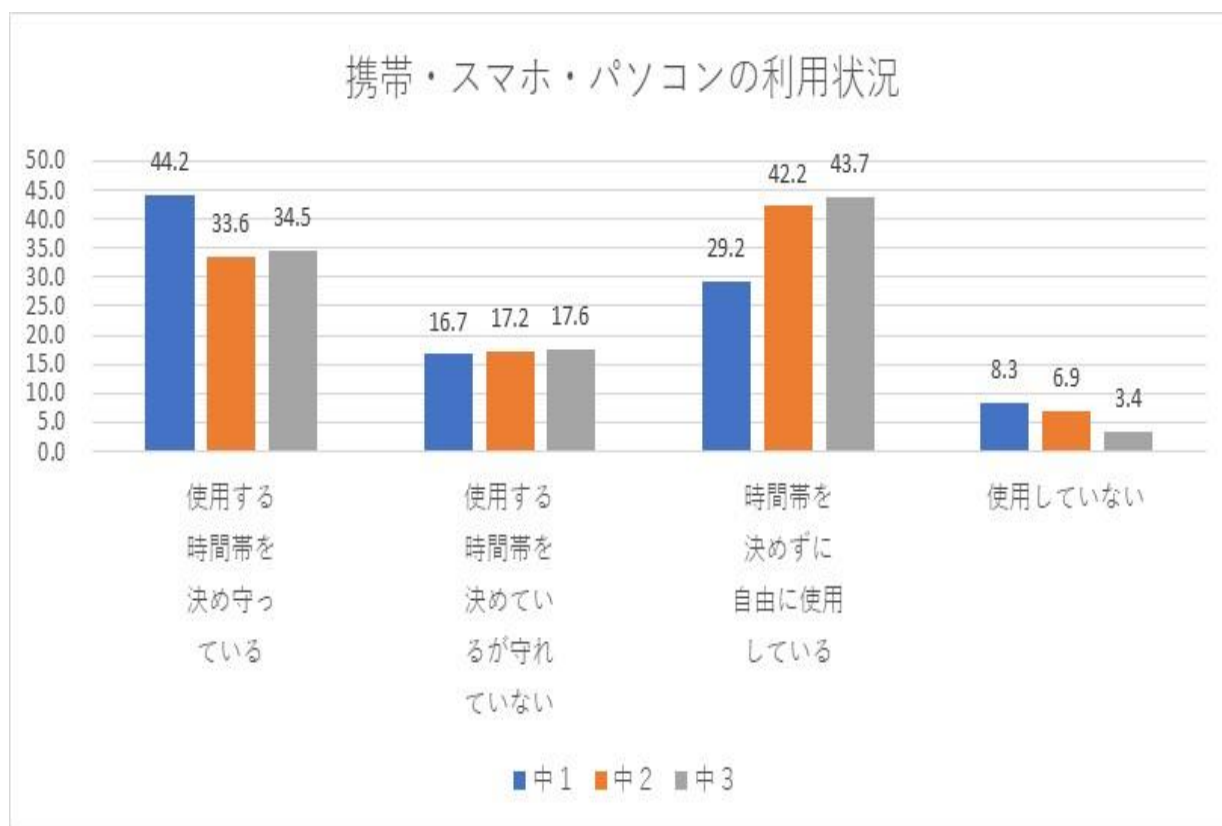
4 授業により教科の力が付く



生徒の授業に対する印象は約 90%以上で良好です

3 携帯・スマホ・パソコン利用の現状

〈データ7〉－学力推移調査（令和7年4月実施）より－



IV 課題

自律した学習活動を送ることができる生徒の育成

（設定理由）

「Ⅰ 学力状況」を見ると、「大分県学力定着状況調査」及び「全国学力・学習状況調査」において、本校は、大分県、全国と比較して正答率が高く、学習内容が定着していることがわかる。また、その質問内容である「知識・技能」及び「思考・判断・表現（活用）」の両面においても定着の高さがうかがえる。

次に、「Ⅱ 学習状況」において、「家庭学習時間」は大分県、全国と比較して多い。この家庭学習時間の多さが、学習内容の定着につながっていると思われる。また、「第1回授業アンケート（令和7年7月実施）」を見ると、授業に関する質問4項目について肯定的評価（「そう思う」・「ややそう思う」など）をする生徒の割合は高く、本校の授業が生徒の学力を伸長させていると言える。

しかし、学習状況項目3つ目の「携帯・スマホ・パソコン利用の現状」では、家庭内でのルールがなく、無制限に使用している状況や、多くの生徒が1日平均1～2時間、さらにはそれ以上の時間を費やしている実態がわかる。

昨今の日本の学力低下の問題に伴って、児童・生徒のテレビ・動画視聴やゲーム、SNS等の時間増長については警鐘を鳴らす新聞記事やニュースが多い。本校も例外ではなく、情報化に伴う娯楽の波は、本校の生徒にも容赦なく押し寄せていると言えるだろう。そのような社会の大きな波の中で、着実な学力伸長を図るための課題として「自律した学習活動を送ることができる生徒の育成」を掲げる。確かに、携帯・スマホ等の使用については家庭での保護者の責任の下で行われるべきである。本校が家庭内にまで立ち入って使用時間制約について指導することは行き過ぎている。生徒自身が自己を律して学習活動に臨む姿勢が身につけば、おのずと学力の伸長は図られると思われる。

V 取組

(1) 学習内容を理解できている生徒の増加

「わかる・できる」ことが、学びへの第一歩となり、「興味・関心・意欲」へとつながっていくスタートとなるので、まずは学習内容を理解できている生徒の増加を目指し、「自律」という高いスキルを身につけるための基盤を作る。

〔具体策〕・ICTを活用した効果的な授業の在り方を追求

- ・「知識・技能」および「思考・判断・表現」を意識した発問、課題、
考査の在り方を検討
- ・中高合同授業改善研修等による教員の指導力強化

(2) 生徒把握の徹底

各種アンケートや学習成績結果を無駄にせず、きちんと分析することで、生徒の現状や変化、さらには生徒の授業・学習に対する意見・要望である生の声を大事にし、それに対応した適切な教育的指導を行う。生徒が「自律」するために必要な対策を適時に練っていく。

〔具体策〕・各種アンケートから見えてくる生徒の生の声を重視

- ・考査、学推等から見えてくる生徒の学力状態を分析

(3) 生徒自身による目標設定の促し

中学生は高校生に比べると、進路選択には迫られてはいない。しかし、自分の理想的な将来を思い描くことは現在の自分と向き合うことになり、必然的に自己の生活習慣や学力状況などについて考えることになる。面談を通し、現状把握や学習指導のアドバイスをすることで、「個別最適な学びの設定」を行い、自己の進路に生徒自身がこだわり目標設定をしていく環境を生み出す。理想的な将来の自分を思い描くことで、他人事ではない自分のための学習活動に向かう姿勢を育てる。

〔具体策〕・面談の充実（担任：進路目標や生活状況、教科担当：学習履歴や

考査結果からつまずきの発見）

VI 授業改善について

(1) 授業改善のテーマ

生徒の主体性の向上を目指し、中高6年間の各学年段階における思考力・判断力・表現力を育成する授業改善を通して、生徒の資質・能力を伸ばす指導法の工夫

(2) 授業改善の重点

学習活動における生徒の主体性の向上

(3) 取組内容

- ・ICTを活用した主体的・対話的な授業の実践と充実
- ・課題の個別最適化による授業外学習の実践と充実
- ・体系的でアウトプットスキルも伸ばす「総学」
- ・希望制による上位者指導の実施と充実

(5) 取組指標

- ・授業において主体的に考え積極的に参加した（生徒アンケート「4」の回答が70%以上）
- ・授業に満足しており、授業内容に興味を持てる（ " ）
- ・生徒の主体性を向上させる取組や働きかけを行っている（職員アンケート「4」の回答が90%以上）
- ・生徒の主体的な学習姿勢を育成するためにICT機器を活用している（ " ）

- ・各教科で研究授業と、それに付随する授業研究会を年1回以上実施。
- ・各教科の特質に応じた「ものの見方・考え方」を重視し、各教科で設定した研究テーマに基づいた授業改善を行う。

(6) 検証指標

短 期

- 1 第2回授業アンケート（12月実施）の全ての項目で肯定的割合を増やす。
（主観データの数値改善）
- 2 令和7年度の大分県学力定着状況調査・全国学力学習状況調査ともに、〔活用〕の設問において、正答率を高い水準で維持する。（客観データの水準維持）

長 期

- ・高校卒業後の生徒の進路志望の達成